稲築東中学校校区義務教育学校施設整備事業
INATSUKI_HIGASHI compulsory education school

基本設計書

01. 基本方針
02. 設計主旨
03. 配置図
04. 1 階平面図
05. 2 階平面図
06. 3 階平面図
07. 断面図・立面図
08. 工程表

嘉麻市教育委員会 | 令和 3 年 8 月

■基本方針

「01. 施設整備の基本方針イメージ

つなぐ学び舎～つながるなかま

Ⅰ 質の高い教育を実現する学校

❶ 4つの課題等に対応する施設	「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」に加え、「体力の向上」を図る、嘉麻市らしい教育活動を展開していきます。
❷ 新たな教育課題に対応する施設	ICT 教育の推進、外国語教育の充実等、今後も変わり続ける教育内容に柔軟に対応しながら教育活動を展開していきます。
❸ ふるさと嘉麻を心に育む施設	ふるさと嘉麻を胸に社会にはばたく子どもたちを育成するとともに、大人と子どもが関わり合いながら共に成長できる教育活動を展開していきます。

Ⅱ 地域創造の核となる学校

❹ 地域の資源として機能する施設	地域コミュニティの核となり、住民が集い、活動し、地域文化の継承や発展、生涯スポーツの振興に寄与する場としていきます。
❺ 安心・安全を守る施設	防災の拠点として機能し、児童生徒・地域住民の安全・安心を守る場としていきます。

「02. 義務教育学校（校舎）に求める優先的な事項

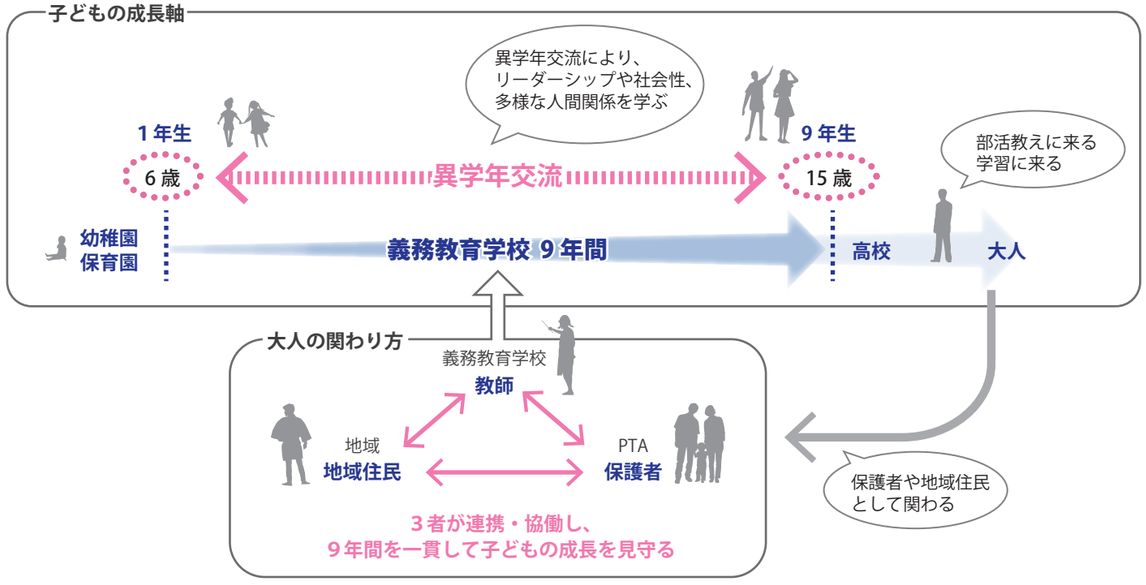
① 全ての教職員が全ての児童生徒に責任を持って関わることができる学校
② 教職員が常に情報共有可能な管理諸室を配置した学校
③ 児童生徒の安全が確保された学校
④ 地域住民に学校の活動が見える学校、地域住民が行きやすい学校
⑤ 複数学年が交流できるスペースがあり、日常の学校生活の中で、異学年の活動を感じることができる学校
⑥ 将来の学校教育の変化に対応できるよう、教室配置や間仕切り方法などフレキシブルに対応可能な学校
⑦ 校舎内の全てのスペースを見直し、学校全体を無駄なく教育活動に活用できる学校

※上記は、「嘉麻市の求める義務教育学校（校舎）」より抜粋

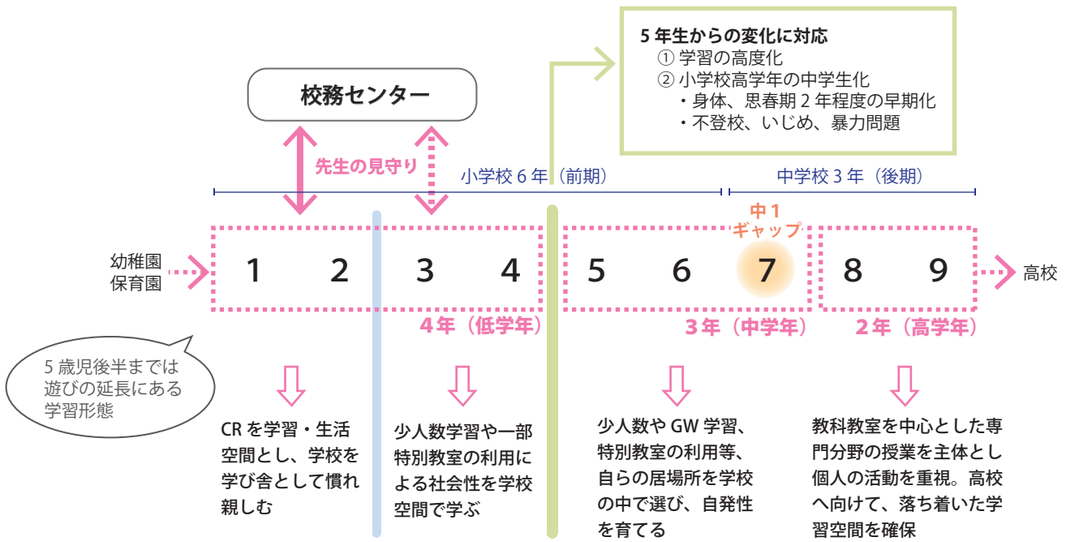
■義務教育学校

・義務教育学校は、学校教育制度の多様化と弾力化を推進するため、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行うことを主旨としている。
・一人の校長、一つの教職員組織で 9 年間の一貫した教育を実施する。
・法改正による義務教育の目的・目標規定の新設、教育内容の量的・質的充実への対応、児童生徒の発達の早期化等に関わる現象に対応、中一ギャップへの対応、少子化等に伴う学校の社会性育成機能の強化などを目的とする。

「03. 義務教育学校と子どもと大人の関わり方 ❶❷❸❹❺



「04. 学年割（4-3-2制）と学習空間の変化に対応可能な計画 ❶❷



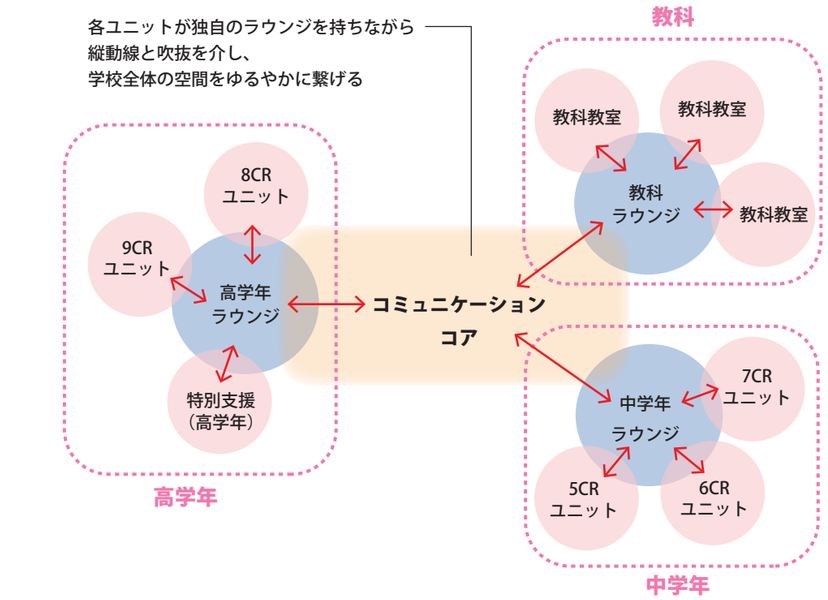
※●＋数字は「施設整備の基本方針イメージ」５項目への対応を示す

■ひとづくりの場としての義務教育学校

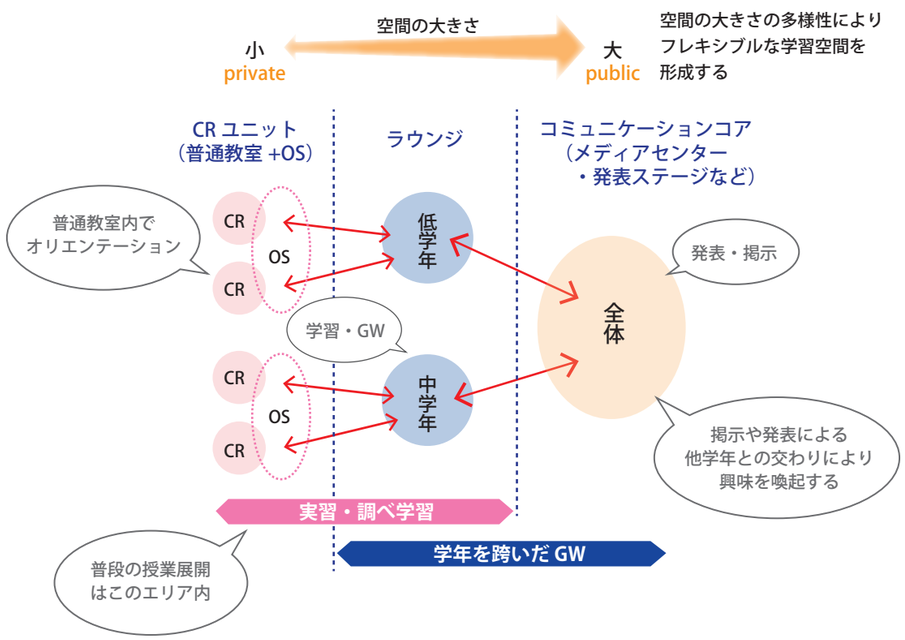
― 異学年交流を促す様々な仕掛けにより、コミュニケーション力と自主性を育む ―

- コミュニケーションコアを中心とした段階的な空間構成により、多様な場をつくりだす
- 縦横の移動や視線の交錯により、異学年交流を促す
- 児童生徒と教職員の接点を増やし、コミュニケーションの幅を広げて教育の充実を図る

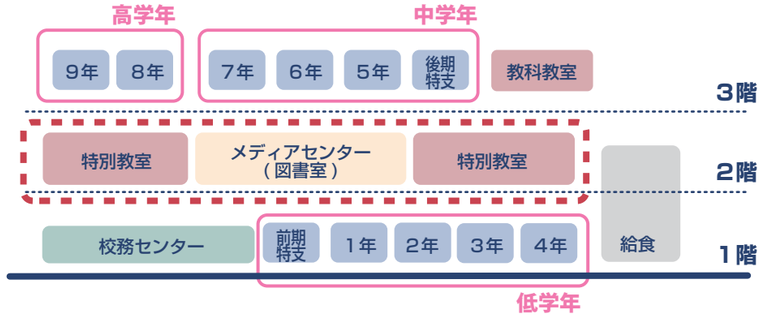
「01. 様々なコミュニケーションを促す空間構成 ❶❷❸



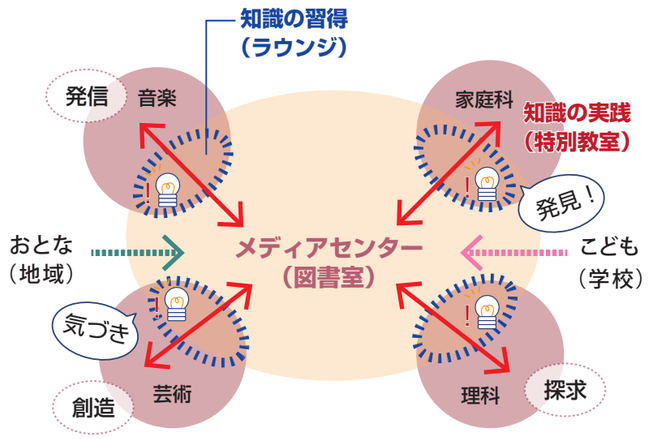
「02. 学習に対応する空間構成 ❶❷



「03. 活性化を促す階構成 ❶❷❸



「04. メディアセンターを中心とした子ども達の多様な活動を誘発する空間構成 ❶❷❸❹❺



※●＋数字は「施設整備の基本方針イメージ」５項目への対応を示す

「05. 子どもと大人が共に成長する「学びの空間」をつくる ❶❸❹❺

地域の核として機能し、まちの活性化を促す

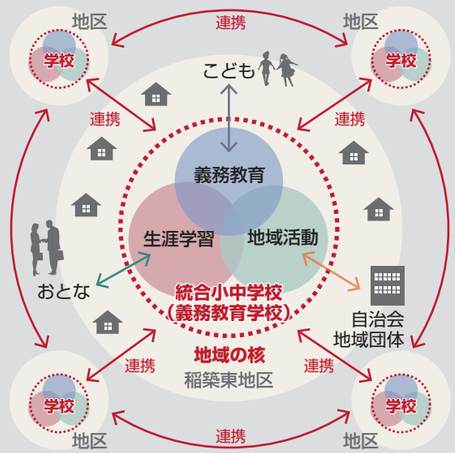
「ひとづくり」で地域を活性化

- 活発な地域コミュニティを成立させるには、それを担う「ひとづくり」が重要である。
- 子どもの学び舎を地域住民の学び舎として広く活用し、様々な活動を誘発させ、地域の核として機能させる。
- 地域住民が自ら学び、考え、発表する場をつくることで、地域活動の活性化を図る。

地域連携による「まちづくり」

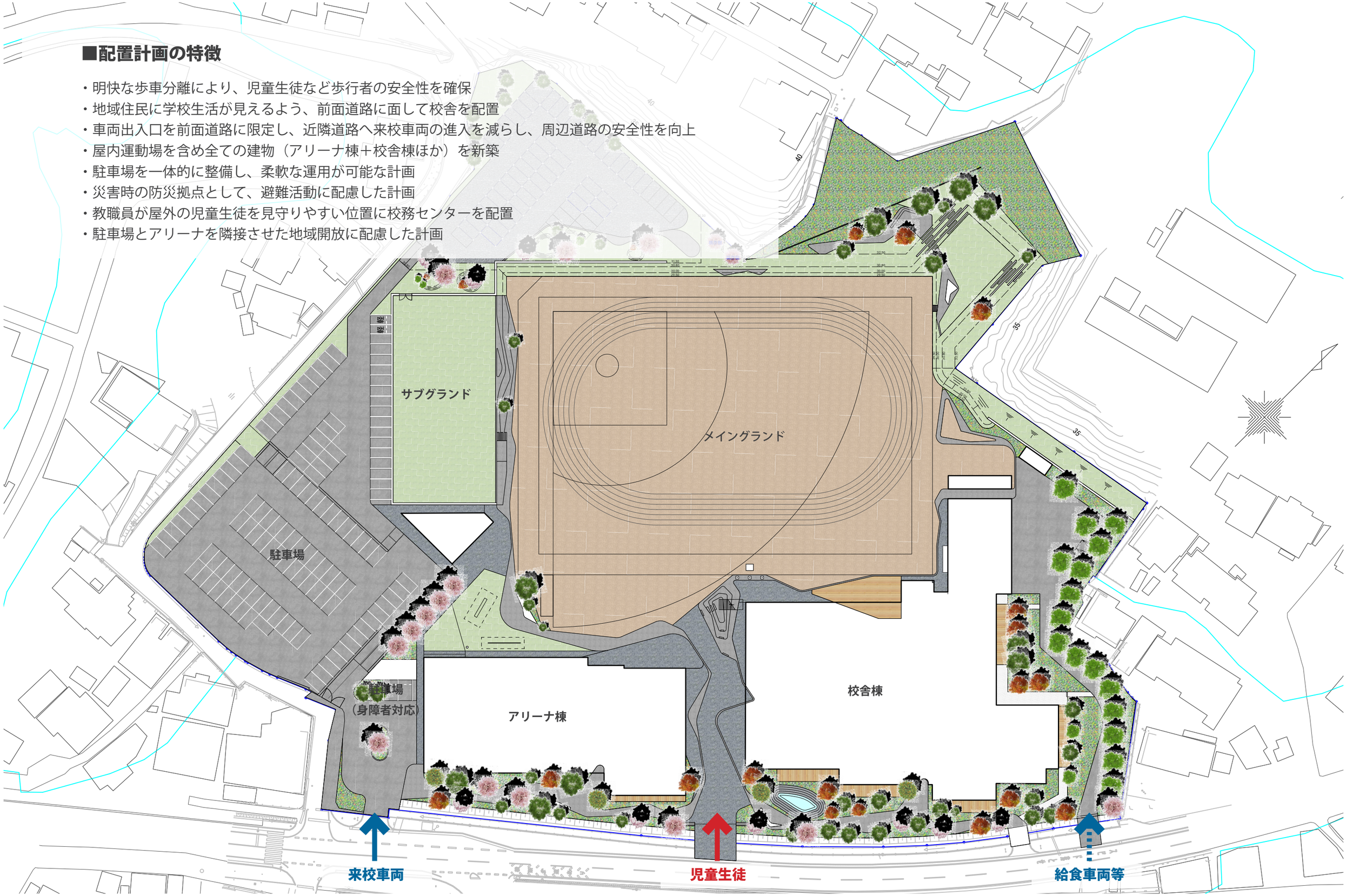
- 地域住民が主体となって様々な活動や運営を行い、地域コミュニティの輪を広げる。
- この輪の重なりを広げて、他の地域との連携強化を図り、嘉麻市全体の活性化につなげる。

将来の積極的な地域開放



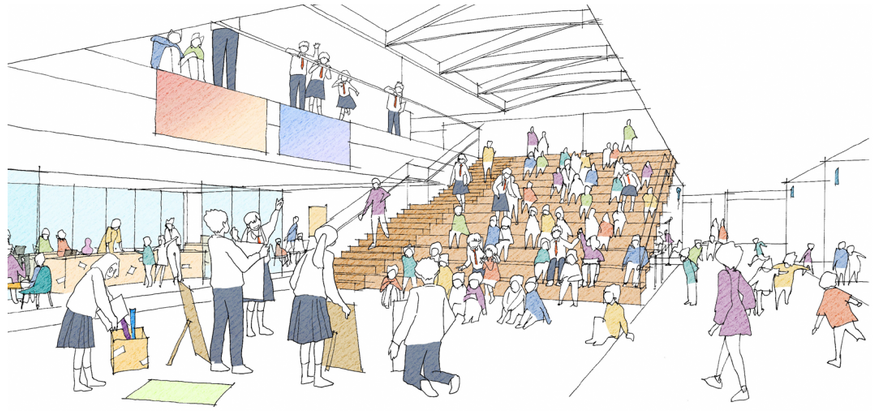
■配置計画の特徴

・明快な歩車分離により、児童生徒など歩行者の安全性を確保
・地域住民に学校生活が見えるよう、前面道路に面して校舎を配置
・車両出入口を前面道路に限定し、近隣道路へ来校車両の進入を減らし、周辺道路の安全性を向上
・屋内運動場を含め全ての建物（アリーナ棟＋校舎棟ほか）を新築
・駐車場を一体的に整備し、柔軟な運用が可能な計画
・災害時の防災拠点として、避難活動に配慮した計画
・教職員が屋外の児童生徒を見守りやすい位置に校務センターを配置
・駐車場とアリーナを隣接させた地域開放に配慮した計画

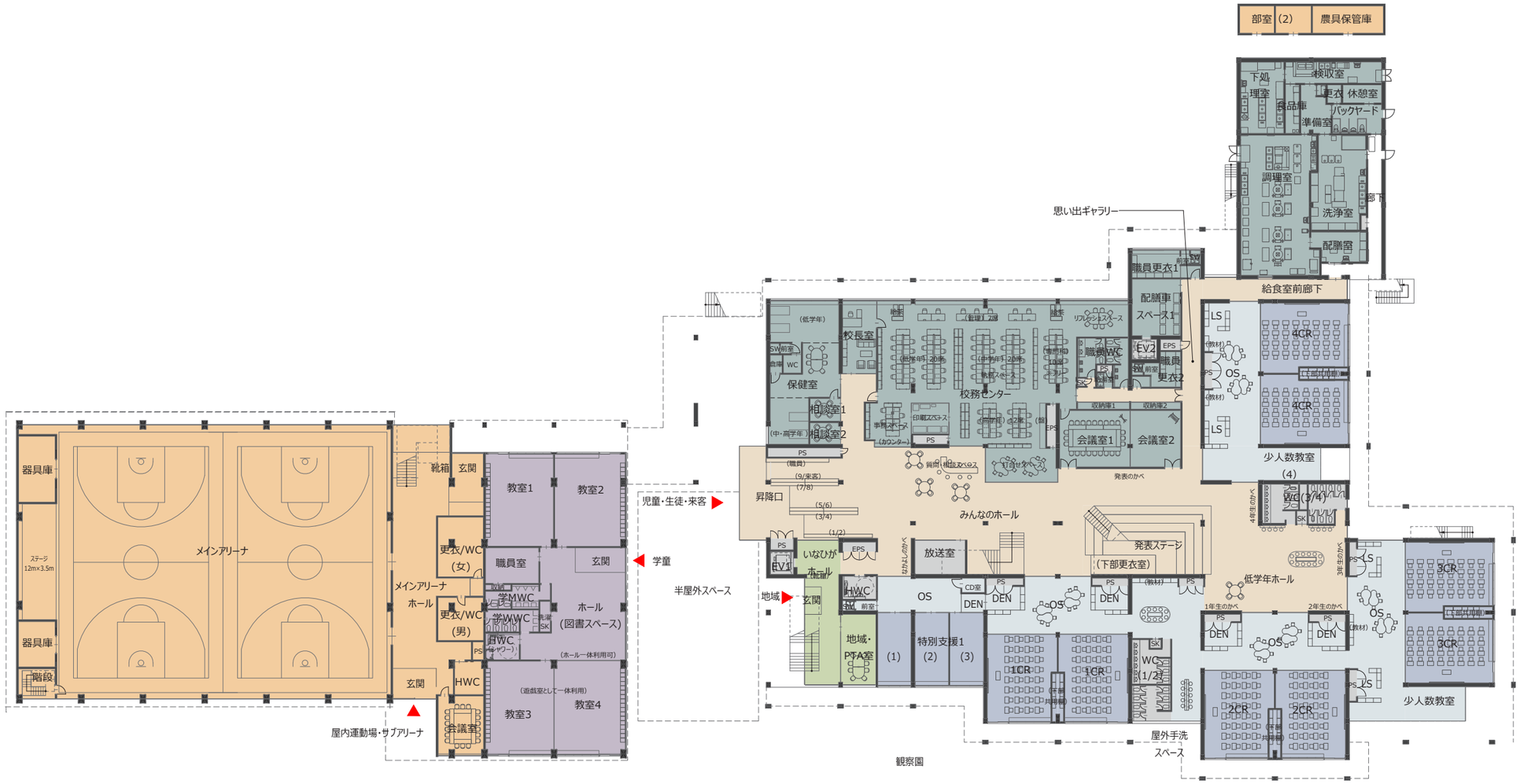


■ 1 階平面計画の特徴

・1 階は低学年（1 年生～ 4 年生）クラスルームと校務センター（教職員室など）を配置
・学年ごとのクラスルームユニット（普通教室＋オープンスペース）を基準単位とした平面構成
・学習の段階に合わせた空間構成により、多様な場をつくり異学年交流を促す
・多様な活動が可能なオープンスペースを持った特別支援学級を配置
・校務センターは全校生徒が利用する昇降口に近接し、児童生徒とのコミュニケーションが図りやすい配置とする
・教職員の情報共有や連携を活性化させるワンルームの教職員室
・低学年の児童が利用しやすいトイレ計画
・廊下の少ない効率的な施設構成
・校舎棟とアリーナ棟の間に半屋外空間を設置し、利便性の向上を図る
・学童はアリーナ棟に合築し、アリーナとの連携を強化

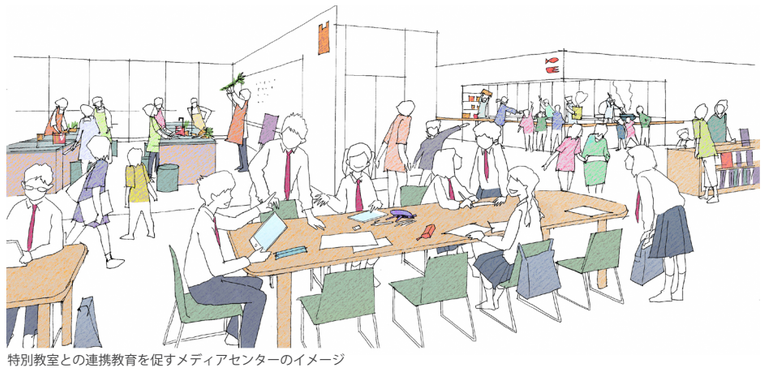


校務センターに面した発表ステージのイメージ
※実際とは異なる可能性があります

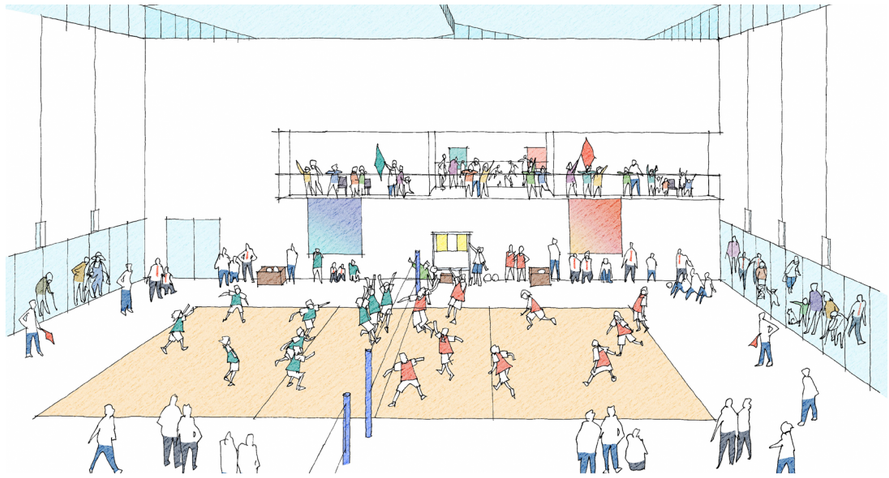


■ 2 階平面計画の特徴

・校舎の中央階である２階に全学年が利用するメディアセンター（図書室）や複数の学年が共有する特別教室を配置
・メディアセンターを中心に特別教室を配置した平面構成により図書と教科の連携教育による学習意欲の向上を図る
・主体的で対話的な学びの場としたアクティブラーニングに配慮した空間構成
・異学年交流の場として、多様な学習空間や児童生徒の居場所となる多様な空間を計画
・給食室が見える食育ギャラリーを計画
・メインアリーナとサブアリーナを合築することで、２階からの観覧や同時に異学年授業など交流を活性化させる一体的な利用が可能
・将来、地域コミュニティの核として機能するよう、段階的に地域開放範囲を広げやすい構成
（①アリーナ棟　⇒②アリーナ棟＋メディアセンター　⇒③アリーナ棟＋メディアセンター＋特別教室）
・屋外に面した開放的な教科ラウンジにより、自然採光と自然通風を確保
・メディアセンター上部にハイサイドライトを設置し、自然採光による明るさを確保
・廊下の少ない効率的な施設構成
・全周にバルコニーを設置し、避難時の安全性を向上



特別教室との連携教育を促すメディアセンターのイメージ
※実際とは異なる可能性があります



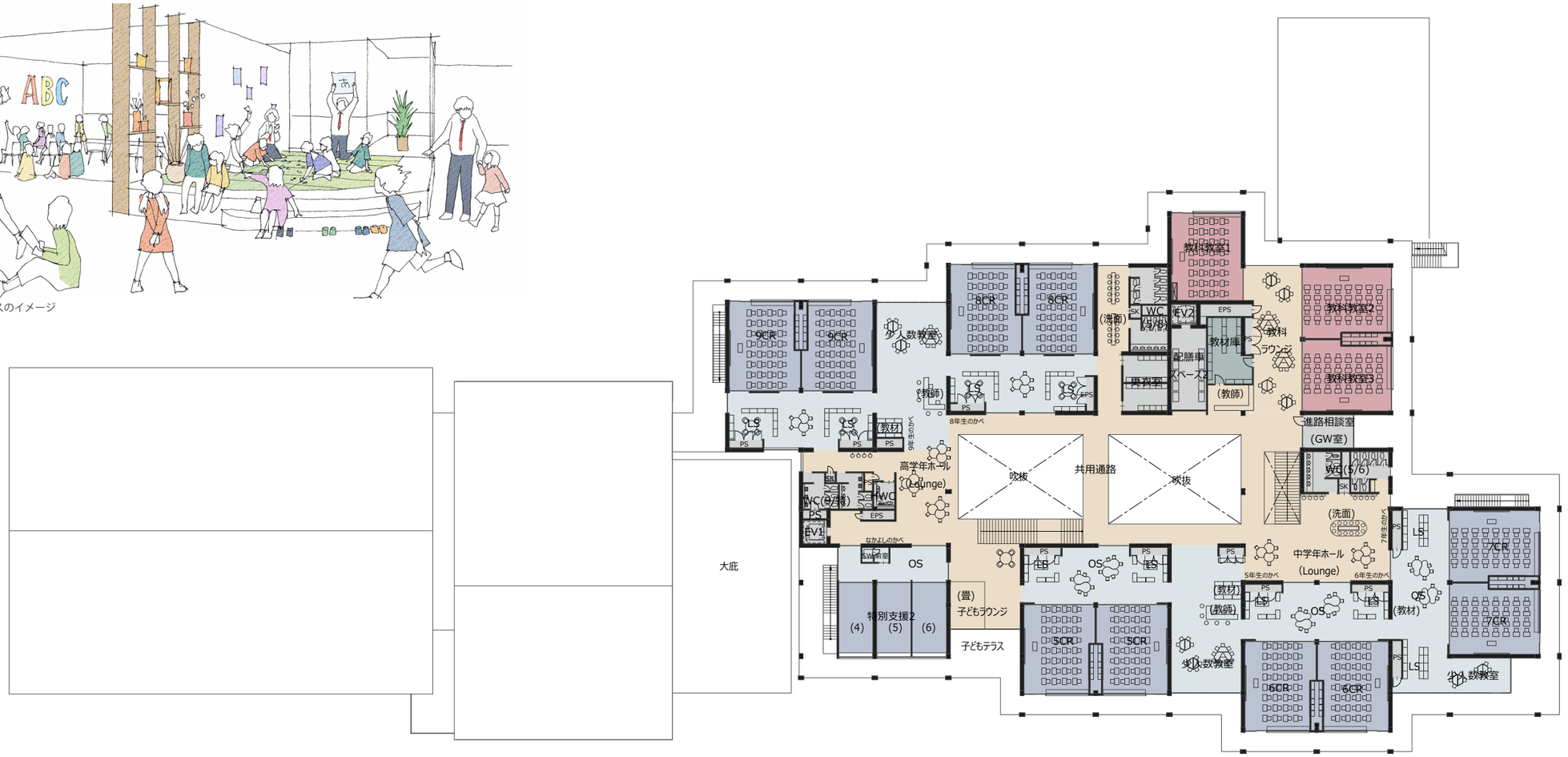
サブアリーナに隣室した観覧スペースとメインアリーナの連携利用のイメージ
※実際とは異なる可能性があります

■ 3 階平面計画の特徴

・３階は中学年（5 年生～ 7 年生）と高学年（8 年生～ 9 年生）のクラスルームを配置
・学年ごとのクラスルームユニット（普通教室＋オープンスペース）を基準単位とした平面構成
・成長に応じたクラスルームユニットの設えの変化により、成長を感じる什器計画
・段階的な大きさの空間構成により、多様な場をつくり異学年交流を含めたコミュニケーションの活性化を促す
・アクティブ・ラーニングに配慮した空間構成
・教科を限定しない柔軟性の高い、ラウンジを中心とした教科教室ユニット
・多様な活動が可能なオープンスペースを持った特別支援学級を配置
・教室は屋外に面した明るく開放的な学習空間
・全周にバルコニーを設置し、避難時の安全性を向上
・ハイサイドライト設置により、自然通風が可能な空間構成
・廊下の少ない効率的な施設構成

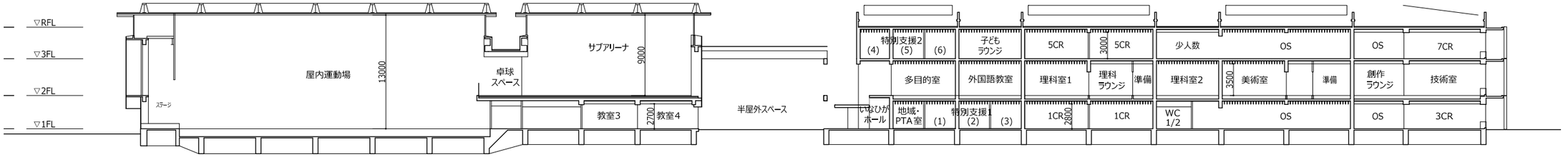
屋内外を一体利用できる子どもラウンジ・子どもテラスイメージ
※実際とは異なる可能性があります

靴を脱いでリラックスできる畳スペースのイメージ
※実際とは異なる可能性があります



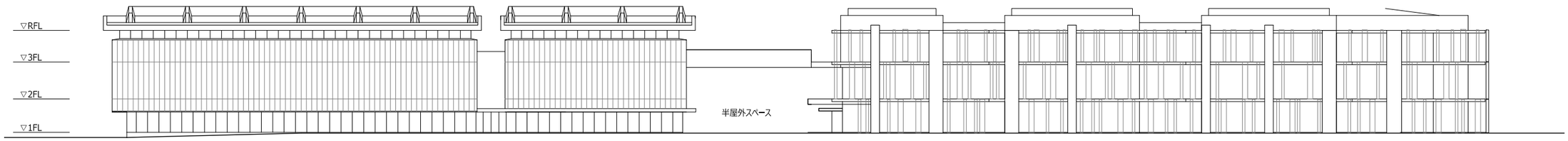
■断面画計の特徴

・大きな空間は吊り天井を設置せず、地震時の天井落下による 2 次災害を防止
・天井に木リブを設置して木質化を図る
・校舎棟、アリーナ棟共にハイサイドライトを設置し、自然採光と自然通風を確保

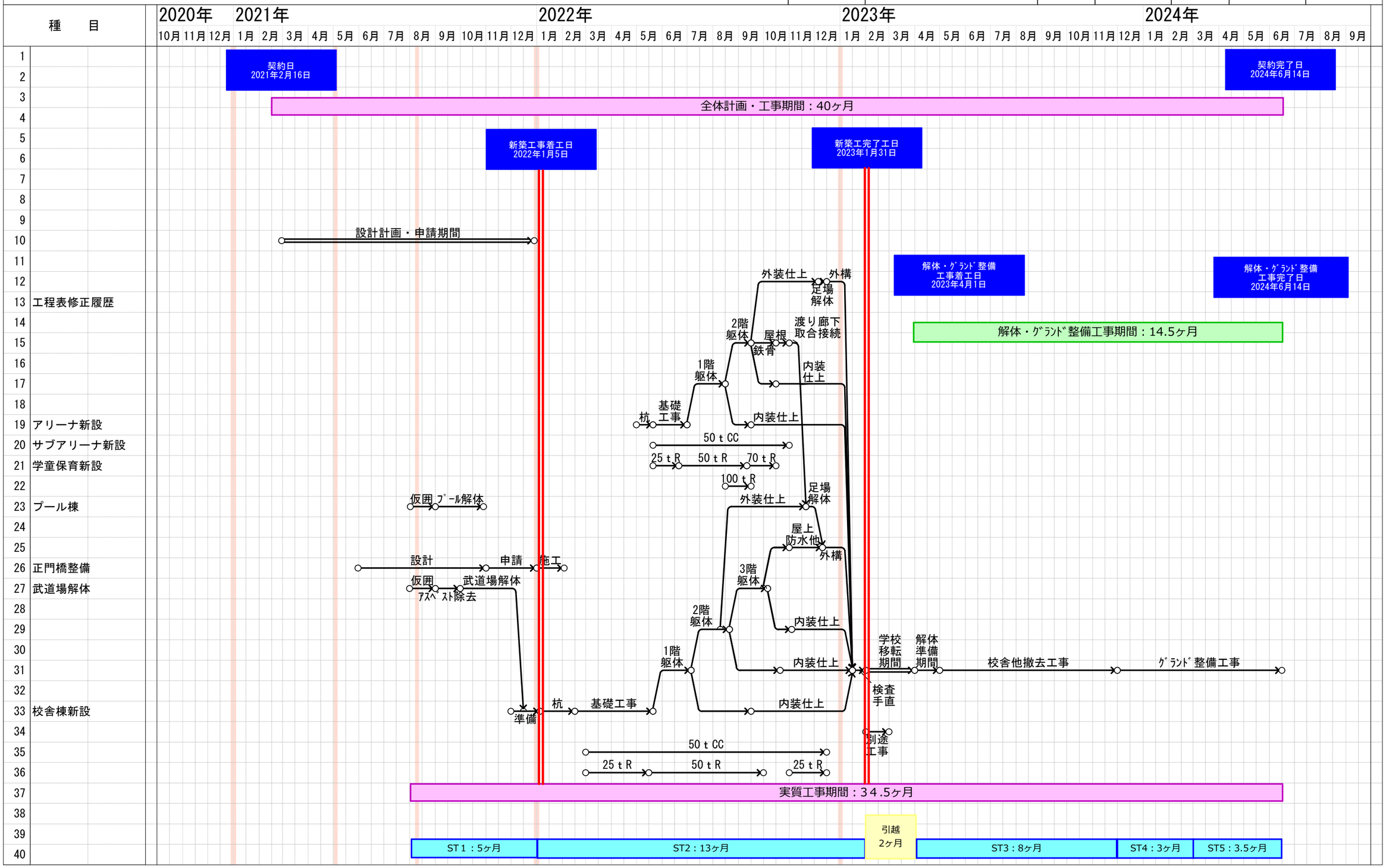


■立面画計の特徴

・校舎棟は熱負荷を抑えるため、バルコニー及びルーバーを設置
・アリーナ棟はメインアリーナとサブアリーナでボリュームを分節化し、周囲への圧迫感を軽減
・アリーナ棟 1 階部分はガラス面とし、地域住民に学校生活が見えるよう配慮
・アリーナ棟は、壁面主体の構成とすることで、日射に対する熱負荷の低減を図り、省エネルギーに配慮
・汚れにくい材料の選定とバルコニー設置による清掃のしやすさにより、メンテナンス性を向上



鴻池・平嶋・久米特定建設工事共同企業体

稲築東中学校区義務教育学校施設整備事業 工程表

発注者	嘉麻市	構　造	RC	階　数	地上３階	作成者
設計・監理	㈱久米設計	建築面積	㎡	着　工		鴻池・平嶋・久米JV
計画地	福岡県嘉麻市平1536番地	延床面積	㎡	竣　工